

生物系特定産業技術研究支援センター 平成 15 年度における業務実績評価結果の概要

農業・生物系特定産業技術研究機構 生物系特定産業技術研究支援センターは、主務大臣から承認を受けた中期計画に基づき定めた年度計画に照らして平成 15 年度に実施した業務の実績について、平成 16 年 3 月 25 日に外部の専門家、有識者の方々（下記参照）からなる評価委員会において評価を受けた。

評価委員名簿

氏 名	所 属
石黒 幸雄	カゴメ株式会社 代表取締役 専務執行役員
大島 泰郎（委員長）	東京薬科大学 生命科学部 教授
大沼 あゆみ	慶応義塾大学 経済学部 教授
小池 正之	筑波大学 農林工学系 教授
佐藤真次郎	株式会社化学工業日報社 取締役第 3 事業本部長 兼名古屋支局長
高田 彰二	全国農業協同組合連合会 営農総合対策部長
日向 康吉	財団法人岩手生物工学研究センター 所長
松島 義幸	麒麟麦酒株式会社 執行役員 アグリバイオカンパニー社長

（１）評価結果

業務関係項目 92 項目の評価は、

a：取り組みは十分であった	87 項目
b：取り組みはやや不十分であった	5 項目
c：取り組みは不十分であった	0 項目

であった。

また、農業機械化促進業務における研究課題 5 課題について、研究の達成度は、「S：計画を大幅に上回る業績が挙げられている」1 課題、「A：計画に対して順調に業務が進捗している」4 課題、今後の研究推進方向は、「A：妥当」5 課題の評価であった。

なお、委員長から「総じて各種の計画、規程に沿ってまじめに取り組み、成果を挙げている項目がほとんどである。」との講評をいただいた。

(2) 主要なコメントとセンターとしての方針

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置に関して

農業機械化促進業務における先進国との共同研究推進に関して

【コメント】

技術研究分野で日本の意見を述べるためには、先進国との共同研究は必須であるので、積極的な推進が必要である。国際化に関する活動強化を期待する。

【対応方針】

これまでイギリスやオランダ等海外との情報交換を進めているが、今後も引き続き精力的に研究者間の交流等に努める方針である。

農業機械化促進業務における研究員の在外研究に関して

【コメント】

研究開発過程で発掘されたシーズを掘り下げるための研究を行う取り組みにとって、本制度は有効である。

【対応方針】

今後は、研究職員に対して制度の趣旨の徹底等を行いシーズ研究の促進等に繋がるよう本制度を活用していく。

農業機械化促進業務における学位取得奨励に関して

【コメント】

鋭意、学位取得数の増加に向けて努力すべきである。現状では、学位取得数はやや少ないと思われる。

【対応方針】

今後も博士号取得に向けて研究職員に対する指導に努めていく。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置に関して

民間研究促進業務における出・融資事業に関して

【コメント】

出融資事業については、社会的な変化に伴う制度の改善の必要性等について検討する必要がある。

【対応方針】

融資事業については、抜本的な見直し案の策定のため、企業の意向や各種制度、施策の把握等を行う。出資事業については、その改善の必要性等について検討をするため、関係省の指導を得つつ、企業の意向等を把握する。

基礎的研究業務における論文の公表数に関して

【コメント】

論文の数値目標を押しつけると、それをくぐり抜けるために質が落ちるのではないか。

数値はわかりやすいが、質も含めて数値化すべきである。成果を公開しなさいという趣旨であると思うので、数でなくて、研究終了後から論文を公表するまでの期限等の目標を設ける方が望ましい。

【対応方針】

独法評価ではできるだけ数値化することとなっており、論文数は数値化しやすいので全独法で計画に盛り込まれている。引用回数（S I）など質を含めた数値化に関しては、一般論としてはわかるが、異分野間で比べるべきではないという経験則上、異分野間で質を比較することは困難である。現在、評価の数値化が他の機関の研究対象となっているので、その推移も踏まえて、今後、少しずつ改善された手法が提案されると考えている。

農業機械化促進業務における研究評価に関して

【コメント】

研究課題評価委員会の各委員からあった、例えば、コスト低減目標の明確化、機械の利用形態を考慮した研究設計の必要性等の個別研究課題に対する意見を踏まえた更なる研究推進を期待する。

【対応方針】

学識経験者、農家等の有識者等の外部委員からなる研究課題評価委員会で作された個別研究課題の推進に関する意見に適切に対応して、研究を進めていく。

【コメント】

一つの技術開発を進めていくと、農業機械開発だけで解決できない問題が出てくる。これらを解決するために、周辺の技術と連携し、持続的農業の実現に向けての研究開発に取り組むことが必要である。

【対応方針】

機械の開発改良だけでは解決できない問題については、関係する異分野と連携して、研究を推進していくが、特に、機構内の作業技術や栽培等の研究分野との協定研究による連携をとおして研究を進めていく方針である。

【コメント】

経済と結び付く研究に関しては、簡単な経済評価を行うと効果が良く理解できる。

【対応方針】

本年度実施した研究課題のうち終了した課題及び来年度から開始される課題について、費用対効果の試算等を参考資料として外部評価を試行した。今後は、このような試算等が研究目標の指標となるように鋭意整理していく方針である。

【コメント】

挿し木技術は、中国からの輸入の問題もあり、開発が急がれている。セルトレイ苗挿し木装置は能力、性能がニーズにあっている。技術開発は、ヨーロッパ（オランダ）より先行していることを評価したい。

【対応方針】

日本とヨーロッパとは、このような装置の利用環境等が異なるので、開発した機械が導入される環境の違いにも配慮し実用化を進めたい。